

特別講演 2

「アフガニスタンの教育と医療の現状について」

島田市医師会長／レシャード医院院長

レシャード・カレット 先生

永年戦禍状態にあるアフガニスタンにおいて社会基盤が崩壊し、一般市民の生活や健康に重大な支障を及ぼしています。戦禍によって年間約 7 千名の死者が発生する一方で、保健サービスの不備や医療従事者の不足によって乳幼児の死亡率が 120/千出生、5 歳未満児の死亡率は 165/千出生を数え、出産時の母体の死亡率は 1,600/10 万出生であり、地域によっては 6,500/10 万出生と世界最悪の状況にあります。

このような状況においてカレーズの会は現地に診療所を設立し、過去 8 年間で約 25 万人の患者の診療、4 万人に予防接種を施行してきました。また、識字率が低いために母親の子供に対する健康管理が充分とは言えないので定期的に母親教室による保健教育を実施しています。治安が悪化しているために患者の定期受診が困難であることから、カレーズの会の現地診療所で最近では地方展開を試みることにし、8 箇所の村でサテライト診療を行うこととし、より患者の居住地に近いところでのサービス提供を目指しています。

この度、上記のような状況や活動に関して報告をし、皆様方のご批評を受けたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。